

教育広報

かけはし

第36号 平成10年12月7日発行
千代田区教育委員会



ありがとう 神田郵便局のみなさん（昌平幼稚園）

主
な
記
事

- ☆21世紀に向けた
「中学校教育検討会」が発足
- ☆スクールカウンセラーの活動
- ☆楽しかった学校行事
- ☆地域に支えられる子供たち（その5）

11月23日の^{きんろうかんじ}勤労感謝の日のまえに、
わたしたちがいつもお世話になっている
方々へ「ありがとう」の気持ちをこ
めて、みんなでプレゼントをおくりま
した。

これからもよろしくおねがいます。

*教育広報「かけはし」は資源保護の
ため再生紙を使用しています。

21世紀に向けた 「中学校教育検討会」が発足しました

千代田区教育委員会では「二十一世紀に向けた中学校教育の創造のために」をテーマに、学識経験者、教育関係者、区民のかたがたから成る中学校教育検討会（座長・今井啓一帝京平成大学教授ほか一〇名）を発足させました。この検討会では、子供たちにとってより魅力があり、特色を生かした中学校教育を考えていくため、中学校教育のさまざまな課題について、調査・研究していただく予定となっています。

かねてより、教育委員会では、中学校を五校から三校に再編整備する方針を検討しておりましたが、現在のところ進捗をみておりません。

一方、この間、国をあげての教育改革が大きな課題となり、中央教育審議会などから、二十一世紀をめざした学校教育の方向性が示されるとともに、中高一貫教育等を可能にする法律や政令の改正が行われる等、教育環境をめぐる情勢は、大きな転換期を迎えております。そこで、先にお示した中学校再編



整備につきましては、当面、見送ることとし、二十一世紀における千代田区の中学校教育のあり方について多面的に検討を行い、新たな方向を見出していくこととなりました。

その第一回会合が去る九月十日、第二回会合が十一月十六日に開催され、その中で、今後、千代田区の中中学校が、教育内容や指導方法に一層の特色を持つことにより、魅力ある中学校となるための手だてや、小学校・高等学校とのつながりを重視した教育のあり方、

施設や制度の上での改善点、学校と家庭・地域との連携などを調査・研究していくことになりました。

中学校教育検討会では、今後、来夏までに、取り組むべき主要事項等を整理して、「中間のまとめ」を作成し、広く各方面からご意見を伺ったり、他地区での事例を調査した上で議論を重ね、おおむね二年後には、最終報告をいただく予定となっております。教育委員会では、これをもとに、広く関係する皆さんと話し合い、意見交換しながら、最終的な実施案を取りまとめたいと考えています。今後、学校関係者をはじめ広くご意見を伺いながら検討を進めてまいりますので、ご意見、ご要望など、お寄せください。

問い合わせ先
教育委員会指導室
内線3164・3168

中学校教育検討会発足に当たって

教育長 井澤 一弘

中学校教育検討会の発足に当たり、千代田区教育委員会を代表いたしまして挨拶を申し上げます。

ご案内のように、今日、我が国は、少子高齢化、情報化、国際化など、社会の急激な変化の中で、二十一世紀を迎えようとしております。政治・経済をはじめ、さまざまな分野において、現状に合わなくなった制度の改革に取り組みつつあるところですが、教育においてもまたしかりで、国の教育改革の動きも急であります。

教育改革が叫ばれる中、次の時代を担う子供たちには、自ら学び考え、行動する力を身につけることが期待されており、また、子供たちの創造力を伸ばしていくことが、学校教育に求められております。さて、戦後、昭和二十二年に我が国において新制中学校が発足して以来、千代田区の中学校は、現在の我が国の中核となって活躍する優れた人材を輩出するなど、公教育の一翼を担ってきたものとして負っているところでもあります。

しかしながら、五十年の歳月を経た今、千代田区のみならず、現在の中学校は、制度の面でも指導方法の面でも多くの課題に直面し、その見直しを求められております。

千代田区教育委員会といたしましても、教育改革の期待に応え、中学校を巡るこうした閉塞状況に風穴を開けるとともに、子供たちにとって魅力ある中学校をつくりたい、子供たち一人一人の個性を生かす中学校をつくりたいと強く願っております。

こうした思いから、広く区内外の教育関係者や区民の方々に委員をお願いし、千代田区の中学校教育を今後どのように改善充実していくかについてご諮問申し上げ、概ね二年間をかけて調査研究を行い、報告をいただくことといたしました。

委員の皆様方には、幅広く、かつ自由な立場から、忌憚のないご意見をいただきたいと存じておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

(九月十日 第一回検討会の席上での挨拶から)

区立中学校生徒海外交流教育

千代田区立中学校生徒のウエストミンスター市への派遣は、今年で四回目を迎え、今までは十名、今回から十五名の生徒が派遣されました。

十月二十九日に出発したときは、期待と不安が入りまじって緊張した面持ちだった生徒たちも、日程を消化するにつれ、充実感が一杯となり、十一月十一日、全員元気に帰国しました。

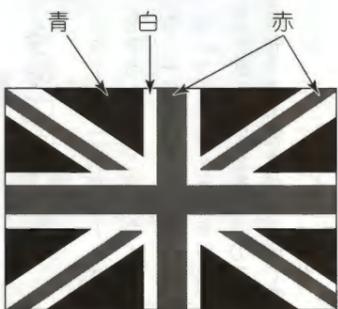
派遣生徒の九段中の笹原史郎さんは、「ほとんどのパートナーは、よくお手伝いを

していました。自分のことは自分で責任を持つということの大変さや重要性を実感しました」と、また、練成中の中澤香苗さんは、「親切な人にめぐり会い、感謝することが多かった。人は助け合って生きていくことが大切で、協力はとても大きな力であると思った」と、それぞれ感想を述べていました。

来年の五月には、今回派遣された生徒が滞在したホストファミリーの生徒が来日して、千代田区の生徒と交流することになっています。

ユニオン・ジャックのいわれ

英国の国旗。イングランドの白地に赤十字の聖ジョージ旗、スコットランドの青地にX形白十字の聖アンドルー旗、北アイルランドの白地にX形赤十字の聖パトリック旗を組み合わせたもの。(小学館「大辞泉」から一部引用)



ユニオン・ジャック (Union Jack)

スクールカウンセラーの活動

近年、学校やその周辺の教育環境が変化し、子供たちにもさまざまな影響が出ています。

そのため、いじめや不登校などの対応にあたっては、学校でのカウンセラーの機能の充実を図ることも、重要な課題となっています。

本区では、前号でご紹介した教育研究所の教育相談専門員（以下「相談員」）をスクールカウンセラーとして週に一回、各中学校に派遣しています。また、小学校には、麴町・神田地区を各一名の相談員が担当し、必要に応じて各学校を訪問できる体制になっています。

そこで今号では、中学校担当の相談員にその仕事内容について聞いてみました。

活動内容

本区での制度が始まったのは昨年の六月です。それからまた時間がたっていないこともあり、各学校の事情や特色によって相談員の役割も異なっています。各相談員に任せられる部分も多く、柔軟性がもたれています。

相談員が学校を訪問した際の具体的な活動には、次のようなことがあります。例えば先生から不登校の生徒に関する相談を受けて答えたり、研究所の教育相談で現に受けているケース（事例）

や白鳥教室（当区の教育研究所内に開設している、不登校児童・生徒を対象とした適応指導教室）に関する情報を伝えたりしています。相談のある先生から、ケースとその経過についての話を受ける、相談員のほうでは、その原因や背景について考え、先生としてどのような援助ができるかについて話し合います。

学校によっては、先生からの要請により、保護者会の方などに保護者の方にお会いして相談を受ける場合があります。さらに、生徒のほうから相談したいという希望があれば、日程などを調整して相談を受けるという形をとっている学校もあります。

養護教諭の先生から、保健室ではこういう相談が多いという全体像を聞く場合もあります。最近、ちょっとしたケガなどで保健室を訪れる生徒が多く、そんな時に薬を塗ってもらったり、絆創膏を貼ってもらったりすることだけでも気持ちがいやされるそうです。また、心の悩みを相談に来る生徒もいるということです。

活動の成果

子どもをとりまく状況について、いろいろな見方があることを相談員から伝えることによって、先生が考えを整理するきっかけとなり、生徒との関わりがより

スムーズになり、不安も少なくなることもあるようです。それが、生徒たちの悩みの解決につながればと思います。

また、相談員の立場としては、学校に行く機会ができたということで、実際に生徒の様子や指導の場を直接知ることができ、大変参考になります。学校の先生の熱心さや大変さを目の当たりにして、私たちが先生との距離もグンと近くなったような気がします。当初はこちらが教育相談の専門家として何か特別なことをしなければならぬという気負いがあつたりしました。しかし、先生と一緒にあってあるケースについて考えていくうちに、相談員としての考え方を伝えることによって役立つことができれば、と思えるようになりました。

さらには、先生が保護者の方から不登校などに関する相談を何回か受けたのちに、研究所の教育相談を紹介することがあります。先生がそこでの橋渡し役になることにより、その後の保護者の方へのカウンセラーが当初よりスムーズに行えるようになりました。こうした意味で、まずは先生が生徒や保護者と向き合うことが大切だと思います。また、相談員からは、教育相談部（教育相談や白鳥教室）に通っている生徒の状況を保護者の了解を得たうえで、先生に伝えることにより、学校との連携を図っています。それが、生徒が学校生活に適応し、自立していくの一助になればと考えています。

今後に向けて

スクールカウンセラーとはどういうことをする人で、どういうイメージがあるのか、一般にはまだ定着していないのではないかと不安はあります。今はまだ試行錯誤の部分も多いのですが、これから先、この制度がよい形で開かれたものになっていけばと思います。

このほか、現在中学校では、卒業生や地域の方々が「心の教育相談員」として生徒の悩みの相談に当たることにより、学校と家庭、地域社会の連携に大きな役割を果たしています。

教育委員会としても、ますます多様化する教育課題に対応するに当たり、教育相談機能の果たす役割の重要性を認識し、スクールカウンセラーを含め今後さらに教育相談体制の充実を図ってまいりたいと考えています。



ファンタジーな体験しませんか

絵本を読むことや、お話を聞くことは子どものみならず大人でも心地よいものです。物語にふれあうことは心をいやすことにつながると思います。

四番町図書館では、そんな心なごむ「おはなし会」を催しています。招待状をいただきましたので皆さんに紹介します。

☆ おはなし会へご招待 ☆

おはなし会は、毎月一回日曜日（日時は広報千代田等でご確認ください）の午後1時30分から行っています。私たち職員やボランティアが絵本や童話を読みたり、昔話をしたり、紙芝居をしたりして、来てくれた皆さんと楽しいひと時を過ごします。

児童や幼児向けですが、ごなたでも参加できます。小さな子どもの頃から物語などのおはなしを聞くことは、こころを体で認識し、豊かな想像力を身につけます。素直に相手の気持ちを理解する心が育ちます。さらに、多くの仲間と楽しみを分かち合う体験もできます。また、目の前で本の読み語りを聞くことで、読書に興味や親しみを持ち、本を読むことが好きになると思われまます。

お友達を誘って、また保護者の方も一緒に物語の中で楽しんでみませんか。12月のおはなし会は20日の第3日曜日です。いつもと違う楽しい催し物を予定しています。お楽しみに！

四番町図書館（四番町二）
TEL 029-06357



あなたの本棚 まちかど図書館

皆さんは、まるでご自分の部屋の本棚からお気に入りの本を手にとりて読むような感覚、読書に親しめる施設、まちかど図書館をご存じですか。ふと本を読みたくなったら、昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館を利用してみましょう。本棚をのぞけばいろいろな本があなたを待っています。また、何となく手に取った本からすばらしい発見があるかもしれません。

もし、お気に入りの本が見つからなくても大丈夫。千代田区の図書館はコンピューターネットワークで結ばれているので、すぐに区内全図書館を検索し、あなたの探している本があれば、取り寄せることができます。（予約扱いです。）

そして、まちかど図書館では、例えば千代田図書館で借りた図書なども返却ができるので大変便利です。（ほかの図書館も同様です。）さらに、夜10時まで開いているので、夕食後、ご家族そろっての読書などに利用してみたいかがでしょうか。

昌平まちかど図書館
TEL 025-15641(代)

開館 9時から22時まで
休館日 毎月第2日曜日
年末年始(12/28、1/4)



神田まちかど図書館
TEL 025-616061(代)

開館 9時から22時まで
休館日 毎月第3日曜日
年末年始(12/28、1/4)



年明けからリニューアルオープン 総合体育館・内神田社会教育会館

本年四月から改修工事を行っている総合体育館・内神田社会教育会館は、新年の一月五日からオープンをめざして、現在最終的な準備段階に入っています。

今回の改修は、耐震補強工事のほか、一部設備機器等の入れ替えなどを行っています。旧内神田教育研究所のあった五階は多目的室、集会所、資料室に、六階はスポーツ健康相談室・運動用具倉庫・防災備蓄倉庫等となっています。

さらに、三階の主競技場ではフットサル（五人制のミニサッカー）ができるようになります。

今回のリニューアルを機に、従来より一層充実し、皆さんに親しまれる施設となるよう、努力してまいりますので、健康増進等のため多くの皆様のご利用をお待ちしております。

お問い合わせはスポーツ振興課
TEL 025-618444 まで



楽しかった学校行事 (10~11月)

速く、高く、遠く
小・中学校
陸上競技大会

去る十月八日、心配された前日からの雨は早朝には上がり、回復に向かう天候の中、平成十年度 区立小・中学校陸上競技大会が国立霞ヶ丘競技場で開催されました。
小学校八校の五・六年生児童、中学校五校の全生徒、そして婦恋村から三十数名の生徒が競技場に勢ぞろいし、各種競技に小学校全員、中学校は選抜された生徒(代表)、婦恋村立中学校生徒はオーブン参加して、見学に訪れた多くの保護者と応援団の声援の中、日々鍛えた力を最大限に発揮しました。心地よい風がほおを吹き抜け、さすがらしい気持ちになりました。
今大会では四つの大会新記録と一つの大会タイ記録が生まれました。

平成10年度千代田区立小・中学校陸上競技大会新記録等

◆ 大会新記録

競技種目	記録・タイム	氏名	学校名
1年男子100m	12秒75 (1位)	阿部茂生	九段中
同上	12秒80 (2位)	小宮康平	練成中
2年男子100mハードル	14秒38 (1位)	常住真生	練成中
3年男子走幅跳	6m38cm (1位)	吉田明臣	九段中

◆ 大会タイ記録

競技種目	記録・タイム	氏名	学校名
5年女子50mハードル	9秒53 (1位)	渡辺かな子	富士見小



▲10/27 婦恋自然体験交流教室(番町小・富士見小・和泉小)



▲11/13 交通安全教室(九段小)



▲11/21 千代田小まつり



▲11/25 チューリップ集会(お茶の水小)

今回は、少年野球チームの一つ「番町エンジェルス」の指導者の方にお話を伺いました。

はじめに、チーム名の由来についてお聞かせください。

チームの創設時に当時の監督とお母さんが相談されて、「天使のように清純で愛くるしい子供たちに育つように」という願いを込めて、「番町エンジェルス」と命名されたそうです。

チームの運営に携わって、お感じになることはどんなことですか。
現在私たちのチームでは、39名の子供たちが活躍しています。そして、チームの子供たちやOBのお父さんが監督、コーチとなって、時には父親の立場で厳しくそして優しく指導しています。子供たちが野球の練習を重ねるほど、ますます野球が好きになっていく姿、それを熱い心で応援し指導する監督やコーチと子供たちのふれあいがいっぱい思われます。

チームの子供たちの保護者は、どのようなことを期待されていると思われませんか。

11月20日に夢の島グラウンドで、恒例の「親子大会」を行いました。子供たちは、日頃の練習の成果を、大人たちの前で十分に発揮していました。親子でグラウンドを駆け回り、白球を追うプレーを

地域に支えられる子供たち(その5)

番町エンジェルス



見て、子供たちの伸びやかな姿がとても印象的でした。

今は親子でキャッチボールができる場所も少なくなり、チームでの親子のふれあいはとても貴重なものです。保護者の方々は、子供たちに野球を通して忍耐、スポーツ精神、友情、喜びと多くの体験を積むことを望まれていると思います。

子供たちに望むことはありますか。
少年野球は、野球を通じてチームプレーを学ぶことと考えます。ですから「チームのために自分は何ができるか」を考えてほしいですね。

チームの運営上特に注意していることはありますか。
第一に、ケガのないように全員が楽しく野球ができること。第二に、全ての選手に公平にチャンスを与えることを心がけています。

最後に今後の抱負をお願いします。
春、夏、秋のいずれの大会でも優勝したい。そして、心も実力も日本全国一のすばらしいチームにしたいと思えます。

生活用具のうつりかわり — ラジオ —

私たちがよく使うラジオという言葉は、放送局から受信機のある聴取者に対して、電波を利用して音声を送る通信方式のことをさすと同時に、この通信を受信する装置自体やその放送内容のこともさしています。こうしたラジオ放送の前身となる無線技術は、一八九五年にイタリア人グリエルモ・マルコーニの発明した無線電信装置の開発によって実用化されましたが、当初は人間の声自体を送信することはできず、モールス信号によって通信が行われていました。世界初のラジオ放送は、一九〇六年にアメリカの無線局から放送されました。このとき送信されたのは、蓄音機の音楽やバイオリンの演奏、歌、スピーチなどでした。そして一九二〇年に最初のラジオ局が設立されました。開局放送は、第二十九代米大統領選挙の開票速報(共和党ハーディングの勝利・翌年就任)でした。

日本で最初の恒常的なラジオ放送の開始は、一九二五年(大正一四年)のことでした。まず三月一日に試験放送が開始され、七月十二日に芝罘(現在の港区)のJOAK東京放送局から本放送が開始されました。第一日目の番組は、天気予報・謡曲・ラジオ劇・童話・長唄・尺八本曲・山田耕筰指揮による管弦楽などでした。このラジオ放送の開始に先立

って、ラジオ放送が初めて一般公開されたのは、一九二二年(大正一一年)に上野で開催された平和記念東京博覧会においてのことでした。このとき東京朝日新聞社は、京橋の本社と博覧会の会場にラジオの送受信機を置いて、博覧会の開催期間中、レコードなどによる実験放送を流しました。

そして一九五五年(昭和三〇年)八月には、東京通信工業(一九五八年ソニーに改称)が、初めてトランジスタラジオを発売しました。トランジスタラジオの開発によってラジオ受信機の小型化が実現し、携帯ラジオやカーラジオなど利用形態が広がったのです。



随想

きょういく

ワールドカップ・サッカー初出場。日本中が興奮した。それから数か月、有力スポンサーがJリーグから撤退。後続企業もあるらしい。日本経済の深刻な

状況を思い知らされた。経済問題の論調は依然、ベシミスティック（悲観的）だ。リストラ、失業等、「冷たい北風」が吹き荒れている。だから経済問題に対する関心は非常に強い。素人までが株価や為替レートの値動きに、一喜一憂する。

教育も難問山積。だが教育論はおしなべてオプティミスティック（楽天的）だ。「ゆとり」「自由」「等」「明るい太陽」を思わせる言葉が目立つ。だから切実感が伝わらないのか？ 次々と発表される教育改革案への反応は、経済対策に比べ鈍いようだ。今回の教育改革案は画期的なもの。一般の方々も注目してほしい。

イソップ物語の「北風と太陽」は、しばしば教育論に引用される。そして「北風は強い教育」「悪玉」へ「太陽は優しい教育」「善玉」のイメージが固定される。

見方を変えよう。なぜ北風は負けたのか？ マントを脱がせるゲームだったからだ。マント着用の競技ならば、勝敗は逆転する。テーマが変われば、対応も変わるということだ。物事は多面的に見なければならぬ。特に教育では、ステレオタイプ（紋切り型）の断定は禁物だ。

あるプロ野球・監督が「勝ちに不思議

な勝ちあり。負けに不思議な負けなし」と言った。ラッキーな勝利はあるが、原因不明の敗戦はない。アンラッキーな場面にもそれを呼び込む原因がある。敗因を分析すれば、貴重な教訓が得られる。それを活かして強くなれ、という意味だろう。勝ちを「成功」、負けを「挫折」と置き換えれば教育にも当てはまる。

北風の向こうに太陽がある

— 貴重な挫折体験 —



横山 安宏

戦後の教育は、子供の「苦痛」を排除することを「善」とし、その逆を「悪」として切り捨てた。単純化すれば——

子供が転んで怪我をしたり、精神的なショックを受けたら大変だ。そこで先回りして走路の掃除をした。邪魔物がなければ子供は楽にゴールインできる。ゴールに入れば手放して喜ぶ—— そんな教育

が行われていたのではなからうか。しかも年々過保護的色彩を強めながら……。

子供の教育における「太陽の教育」優先は正しいと思う。だが「北風の教育」を忘れた点は反省しなければならぬ。

走路にはハードルがあった方がいい。子供が自発的に設定できればなおいい。乗り越えれば喜びが大きい。転落すれば痛い。痛いから子供は失敗の原因を考え（あるいは考えさせ）る。①ハードルが高過ぎたのか②努力が足りなかったのか③方法が間違っていたのか④一人では無理だったのか……と。その反省を行動に移して、難度の高い課題に挑戦する。成功・失敗どちらでも、ヤッター！と全身で感じる確かな「手応え」。その積み重ねとなるであろう。ここで自問自答。

【問一】挫折は「教育の目的」になり得るか？ 答えNO。【問二】「教育の方法」として有効か？ 答えYES。暖衣飽食の時代だから、一段と挫折体験が意味を持つ。「教育方法としての挫折」を回避すれば、「結果としての挫折（いじめ・不登校等）」を招く。「北風の向こうに太陽がある」と気付かせること。それは親や教師の大事な役割である。

よこやま やすひろ
千代田区教育委員長
元麹町小学校長・幼稚園長

編集後記

先月、しし座流星群の夜空の競演を見ることができました。日本では三十三年ぶりとのことでした。

私たちが日常の生活の中で、一生の間になんか目にあたりにできないことがありません。そういった巡り合わせや出会いを一つひとつ大切に、心に積み重ねていきたいものです。

さて、中学校教育検討会が発足しました。「二十一世紀に向けた中学校教育の創造のために」をテーマに調査・研究が行われます。新制中学校が発足してから五十年経った現在、社会の急激な変化とともに中学校教育にもさまざまな課題が生じ、見直しが求められています。魅力ある中学校の実現とともに、二十一世紀が心豊かな社会になることを期待したいと思います。

今年もあとわずか、寒さが日ごとに厳しくなっています。早寝早起き、うがい、正しい食生活など一日を軽快なリズムで健康に過ごしましょう。

「かけはし」についての「ご意見・ご感想・ご要望」をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第三十六号
平成10年12月7日発行
編集発行 / 千代田区教育委員会
〒102-8688 千代田区九段南1-6-11
☎(3)2664-0151 内3114

きょういく

随想